

湖東麻織物の新たなブランディング

100年の職人技とストリートカルチャーが融合した

【蒟蒻麻絲(KONJAC LINEN)】をお披露目します

滋賀県の地場産業の一つである湖東麻織物は室町時代より続く麻織物の産地であり、伝統的な技術を守りながらも新しい技術を取り入れ、時代に応じたデザイン性・感性に優れた新製品の開発とその発信を行っています。

湖東繊維工業協同組合は、「こんにゃく糊加工（麻糸に加工を施すことにより肌触りや光沢感を向上させる）」などの伝統的な技と、ストリートカルチャーを融合した新たなブランディング『蒟蒻麻絲 (KONJAC LINEN)』に取り組み、滋賀県東北部工業技術センターの技術支援によりTシャツを完成させました。現在、松井龍哉氏（大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「いのちの未来」館共創クリエイター）の監修のもとブランディング・プロモーションを推進しています。このたび、蒟蒻麻絲 (KONJAC LINEN) の完成したTシャツ、取組、プロモーション映像をお披露目します。

蒟蒻麻絲（麻Tシャツ）の特徴

- 湖東地区伝統技術のこんにゃく糊加工を糸1本1本に施し、肌触りが良い
- 速乾性や通気性に優れ、スポーツやストリート向け
- 仕上げ加工により、シルクのような光沢感
- ストリートカルチャーをテーマに直感的にデザインした型染め
- 体温により色が変わる染料で職人が1枚1枚染め上げる



プロモーション映像

プロモーション映像は「つなぐ」をテーマに、職人が技術を繋いでいくカット、最前線で活躍するアスリート・次世代を担う地元のスケーターが蒔蒔麻糸のTシャツを着てパフォーマンスをするカットをミックスした躍動感のある映像です。



東北部工業技術センターによる繊維産地への支援

蒔蒔麻糸（KONJAC LINEN）の取組では、ニットにすることが難しい麻糸でTシャツを作るため、東北部工業技術センターが保有している電子制御式ニットマシンを用いて糸の開発や生地を試作支援を行いました。これらに加え、当センターでは、店舗の暖簾や展示会のブースに使用するタペストリーのプリント、新しい織物の開発の際の試し織りや展示会用のニット生地見本の作成など、様々な支援を行っています。

なお、上記ニットマシンは小ロット、短時間で試作開発を可能とするため、令和元年度に経済産業省の「地域新成長産業創出促進事業費補助金」を活用し、テキスタイルデザインシステム、万能型インクジェットプリンタとともに導入したものです。これら装置や意匠燃糸機や自動サンプル織機等各種繊維関連装置を活用し、当センターは、今後も県内繊維地場産業を中心とした繊維産業の新商品開発や新市場開拓に向けた支援を行ってまいります。